

## 教育のつどいヒロシマ2025

### 「主権者を育てる教育を」学校・教室から・・・ 問題別・教科別、記念講演に のべ220名の参加！



鈴木大裕さんによる記念講演

夕方からは広島ロードビルに会場を移して全体会を開催。オープニングでは有志による『生命輝

記念講演に二〇〇人超

会場を提供し、お世話していたいただいた観音中分会、職場のみなさんに感謝します。

11月15日(土)広島市・観音中学校で「教育のつどいヒロシマ2025」が開催されました。午前中の問題別分科会に50名、午後の教科別分科会に63名が参加。登録され、報告されたレポートは62本。学校や子どもたちの姿や困難な中での実践の工夫や苦勞などを大いに交流し、学びあいました。

く明日へ』の合唱があり、会場が感動と一体感に包まれました。記念講演は鈴木大裕さん(教育研究者・土佐町議会議員)による「崩壊する日本の公教育」私たちがどこに希望を見出すのか」。会場82名、オンライン27名が大裕さんの説得力のある話に聞き入りました。講演の合間に質問コーナーを設けて会場とやりとりしながら話を進める大裕さん。2時間があつという間に過ぎました。

#### 《記念講演の感想から》

○「構想」と「実行」を取り戻すという話に納得。大人も子どももワクワクする学校にするためにはそれしかないと思う。すごく厳しい現実を前にして何ができるかと思っただけで、できることがありましたが、できることはいろいろありそうだと思

えしました。搾取する側に協力して搾取が成立する話にドキツとしました。人と人をつなぎながら進んでいくと思ひます。

○あらゆる問題の本質が語られとても分かりやすくスッキリした。政府や行政



オープニングの合唱団(上)と会場いっぱいの参加者



の誤った思考を正すには、全国の公教育に携わっている教職員・保護者・地域が大きな運動を起こすしかないと思う。早くなんとかしなければ地球レベルで大変なことになる。

○アナログ人間の私は絶滅危惧種か?と思っただけで鈴木さんの話を聞いてもう少し胸を張って頑張っていきたい。

○私たちが奪われている教師としての構想を取り戻すことが喜び、元気につながる。教職員組合としての教育的正義をつくる教育専門家集団になること。希望の持てるお話が聞けました。

#### あらくさ

収穫の秋。今年も、バケツ稲栽培に取り組んだ。障害児教育の聖地ともいわれる京都の養護学校に見学に行ったときに、「稲作りが日本文化創造の基盤であった」という歴史に学びながら、全校集団労働として位置づけ取り組んでいる」実践に感銘を受けて、ずっと長く取り組んでいるバケツ稲栽培である。▲教室前の廊下で、管理、観察をしたので、通りがかりの生徒や先生も、令和の米騒動で、興味関心を示していた。小さいバケツでできる米の量はわずかで、米不足の足しにはならないが、学びは広がる。▲6月に約15cmの5本の苗を田植えしてから、分けつ、成長して、丈は1mも伸び、30本近くまで増える。その間、水を絶やして枯れることのないように、水管理が続く。10月に稲刈りしてから、茶わんや割りばし、牛乳パックなどを工夫して脱穀。すり鉢とボールで粃すり。瓶と棒で精米。少量の米でも、手間がかかる。昔の人の苦勞をしのび、様々な道具や技術が向上してきた文化や歴史を学ぶ。▲ICTなどの進化した教材にすぐに飛びつかず、文化と歴史から学ぶ実践を大切にしたい。

# 頭を寄せ合って、語り、聞きあうことで見えてくる大切な事

## 【分科会の感想から】

○どの子ども大切に育てていきたいという熱い思いのつまったレポートを聞かせていただきました。ありがとうございます。「どの子ども大切に」の思いに立ち戻らせてもらいました。（障害児教育・障害者問題）

○F先生が児童に向き合っ  
て大変だったけど少しづつ  
改善された様子が心に残っ  
た。あきらめず続ける指導  
は最後には子どもたちに響  
くことを学んだ。（生活指  
導・自治的活動・主権者教  
育）

○次の学習指導要領が目指  
すものや特別支援の課題、  
ICT教育の課題など多岐  
にわたって学習できた。教  
育予算を増やして、教育条  
件を整備していくことでゆ  
とりをもって子どもの声を



4本のレポートで充実した学び  
発達・学力・教育課程分科会



子どもの作品を持ち寄り  
論議する図工・美術分科会

聴くことができるし、ICT  
の活用能力も高まるので  
は、と思った。（発達・学  
力・教育課程）

○すばらしい時間でした。  
書くことのすばらしさ、学  
級通信の取り組みのすばら  
しさ、新しい平和教材の苦  
悶しながらの実践のすばら  
しさ。やはり教研集会はす  
ばらしい。（国語）

○AI時代の中、社会科で  
子どもの目をどうすればイ  
キキとさせられるか。こ  
れを議論する場となった。  
この「つどい」は大切にし  
なければならぬ。（社会科）

○中学生のつまずきに関す  
るレポートで深く協議でき  
た。知識をはり付けてもす  
ぐはがれおちてしまう。手  
と身体を通して学び、学ぶ  
べき本質を体に浸透させる

こと。ではどんなゲームを  
できるか、ドリルの学習は  
否定しないけど前提として  
本質をつかお授業が不可  
欠。（算数・数学）

○実験のノウハウ、経験を  
交流し工夫し、つくり出す  
楽しさを覚えた。理科の楽  
しさを子どもたちに伝える  
には、まず教師が楽しむこ  
と。（理科）

○普段学校に教科担当が一  
人のことが多いので、交流で  
きてよかった。美術は社会  
と深く関わっていて、私も  
子どもたちにそのようなこ  
とを伝えられる授業がした  
いと思う。（図工・美術）

○教師として子どもに向き  
合う時間、授業をする工  
夫、その一つひとつが心を  
込めて準備する大切さを感じ  
た。これからもうひとりの  
ある働き方、全く仕事を  
なれての充分なゆとり、文  
化的な生活を保障しなけれ  
ば日本の未来はない。（音楽）

○物品の購入の工夫や転勤  
後のいろいろな改善を聞い  
て勉強になった。市教委の  
問題も改善してほしい。  
（学校事務）

## 尾道・福山でも「教育のつどい2025」開催



尾道、福山の仲間が集って  
学び、語りあう



講師の  
藤井さん

全教尾道支部と福山支部は10月25日（土）、福山市内  
において「教育のつどい2025」を開催しました。今年  
は被爆・終戦80年をテーマに、『満蒙開拓団の聞き取り  
調査から学んだこと』を伝えよう、戦争の記憶をいっしょ  
に忘れてはならないことと題して藤井和寿さん（元  
小学校教諭 満蒙開拓団史の会 会長、全教広島共同研究  
者の講演をお願いしました。父母・市民もあわせ17名  
の参加で学び合いました。

講演は、藤井さんが実  
際に関係の方々から聞き  
取られた内容をもとに進  
められました。藤井さん  
は、「新しい戦前」とい  
う言葉が聞かれるよう  
になっていますが、今日  
は「本当にあった戦前」  
について学びました。  
「と切り出されまし  
た。そして、日本が15年  
戦争の中で、不況を切り  
抜けるために満州（中国

東北部）を侵略していった  
過程、そして戦況が厳しく  
なっていく中で開拓団の  
人々が見捨てられていった  
過程などについて縦横に語  
られました。

藤井さんはまとめとし  
て、①戦争で死ぬのは兵士  
だけではない。②（政府  
は）「国を守れ」とは言っ  
ても、国民を守ってはいけ  
ない。③戦争は、国民を被  
害者にも加害者にもする。  
の3点を挙げ、「日本の被  
害と加害の歴史をきちんと  
学ぶことが大切です」と述  
べて90分の講演を締めくく  
られました。

低賃金、物価高騰に苦し  
む国民の声をよそに、「世  
界の真ん中で咲き誇る日  
本」「強い日本」を強調す  
る新政権が生まれました。  
私たちは歴史を学び直すこ  
とでこれを厳しく批判し、  
情勢を学び、平和教育・運  
動を進めていく必要がある  
ことをあらためて学ぶつ  
どいでした。





戦争する国づくりストップ!

「非核三原則」の見直し検討を撤回せよ!

高市首相は、安保関連3文書の改定に伴い、「非核三原則」の見直しを検討していることが明らかにになりました。被爆者の願いを踏みにじるこの暴挙を被爆地ヒロシマは決して許しません。

また、安保3文書の改定をすすめ、トランプ米政権いいなりのGDP比3・5% (約21兆円) 等、さらなる大軍拡をすすめるようとしています。これら就任一カ月の間に戦争する国づくりにまっしぐらの高市政権に断固抗議の声を被爆地ヒロシマからあげるため、憲法と平和を守る広島共同センター等の呼びかけで、11月19日に広島市中心部でアピール行動が実施されました。県被団協の佐久間理事長ら6名がマイクを握り、えびす講でにぎわう市民にアピールしました。

前市教組 (全教) 委員長、ヒロシマ労連議長の寺本さんは、「非核三原則の変更を許せば、核兵器をこの地球からなくしていくこうとする国際的な努力に逆行し、唯一の戦争被爆国としての日本の信頼は地に落ちてしまう

でしょう。決して許してはなりません」と述べ、最近観た映画『はだしのゲン』はまだ怒っているを引き合いに出し、今の戦争への準備を進めている政権に対して「私たちもゲンとともに怒っている」と呼びかけました。

この行動には、緊急の呼びかけにも関わらず、50名が駆けつけました。全教広島からは、神部副委員長、中本書記長、金子・加藤書記が参加しました。

## 海田支部 BBQで パワーぜんかい!



## 佐伯支部 共済おしゃべりカフェ 全教共済の よさ実感!

海田支部は11月3日、こもれびハウスで「バーベキューの集い」を開催し10名が参加しました。肉や飲み物、差し入れを持ち寄り、火を起こす人、肉を焼く人、準備をする人など各々役割を分担しながら、和やかな雰囲気の中、普段の職場の様子も交流でき、近況も語られました。改定給特法のミニ学習会も行い、確定交渉に向けて職場賃金署名にとりくむことも確認しました。

なかなか会えないからこそ、こうして集う意味があります。2学期も半ばを迎え、この交流で元気を補充し、また、やっていこうと思えるものとなりました。秋風が少し冷たくなる中、バーベキューを囲む歓談と笑い声が二河峡の谷間に、高く軽やかにこだましていました。

佐伯支部では、11月11日に支部組合事務所で開催し8名が参加しました。講師に西田書記を招いて、全教共済について説明を聞き、交流しました。参加者からは「初めて聞く話などに驚いた」「どれも全教らしさがある共済に改めて感動した」などの感想が語られました。四海支部長は、服務研修で、自身の交通事故の際に、被害者に対して謝意をしっかりと伝えることが、自身の身を守ることにつながる (全教対応) と話したという経験を語りました。また『給付忘れありませんか?』のカードを職場で渡す際に、「自分の学校にこんな共済に加入している人がいるとは知らなかった」と全教共済の広がりを感じ、うれしかったという声もありました。全教が行っているからこそできる共済だということが分かり、職場で広げようと思いがえる会になりました。

お申込みは、全教広島または各支部へ

2025年10月~1月限定!

「**キット** いいことあるよ♡キャンペーン」

共済加入者・紹介者全員に **キットカット** 20コプレゼント!

さらに!

期間中の加入者・紹介者  
20名の方に

**フリンズホテル**  
豪華ランチツアー

2月予定



広島県のゆきとどいた教育をすすめる秋のつどい

# 日本政府はこの遺骨を見捨てるのか！ 歴史に埋もれた長生炭鉱の重大事故から考える



「刻む会」共同代表  
井上洋子さん

10月26日(日)、広島市内で「ゆきとどいた教育をすすめる秋のつどい」を開催し、35名が参加しました。  
今回は、被爆・戦後80年企画として、今話題の「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会(刻む会)」共同代表の井上洋子さんに講演をお願いしました。

運動の典型を示されているような活動から多くのことを学びました。最後に井上さんは「長生炭鉱の遺骨収容・返還のたたかいは、同時に日本の加害の歴史に向き合う道程だ」と強調しました。会場で緊急に呼びかけたカンパは5万円を超えて集まりました。

その後の発言では「工夫しながら署名を集め、教育条件の改善につなげたい」(全教)、「高校統廃合の動きが都市部でもすすめられようとしている。反対の声をあげたい」(高校連絡会)、「公私間格差解消に向けて署名を積み上げたい」(私学)、「公立の学校にも私学署名を訴えている」(父母懇)などの取り組みが交流されました。その後、11月末を目安に署名を積み上げることに提起されました。最後に閉会挨拶で神部全教広島副委員長は、「井上さんの粘り強いたたかから学び、軍事費でなく教育にお金をかける世論を広げ、署名を通して対話をすすめましょう」とまとめました。

12/5  
(金)まで  
に署名を  
書記局へ

## 県内各地で…「せんせいがんばって！」 ゆきとどいた教育をすすめる街頭署名



広島

上記の「つどい」の後、広島駅北口において街頭署名を行いました。この行動には広私教や父母懇のみなさん、高校生も参加し、15名の行動になりました。行動の最中に山本市教組(全教)書記長の教え子が通りがかり、対話が弾みました。また、私学の生徒がマイクを握って署名を訴えるなどして、約30分の行動で30筆が集まりました。立ち止まって熱心に訴えに耳を傾ける人もいました。



尾道

尾道支部は、11月8日(土)13時30分から1時間、尾道駅前で街頭署名を行いました。署名活動には、OG・OBの方3名が参加してくださいました。6名で行いました。



福山

福山支部も11月8日(土)、福山駅前で街頭署名に取り組みました。当日は、同場所で行われた県知事選挙街頭演説を聴きにいられた市民の方が飛び入りで協力してくださるなど、うれしいことがありました。今回は17人の方から署名にに応じてもらいました。

